国立民族学博物館 友の会ニュース

MINPAKU ASSOCIATES NEWSLETTER

No.254
2019.11▸12

「国立民族学博物館友の会」は「みんぱく（国立民族学博物館）」の活動を支援し、博物館を楽しく、積極的に活用するためにつくられました。

発行日 2019 年 11 月 1 日
編集・発行　一般財団法人千里文化財団

台風による被害を受けられた皆様に心よりお見舞い申しあげます。

このたびの台風 19 号の被害により、当該地域の方におかれましては、一方ならぬご心労のことと心よりお見舞い申しあげます。一日も早い復旧と平常の生活に戻られますことを切にお祈り申しあげます。
なお、刊行物のご送付先の変更等ございましたら、どうぞご遠慮なくお申し出ください。

国立民族学博物館 共催展・巡回展のご紹介

博物館でも！ 博物館の外でも！ みんぱくの展示を楽しむ！

みんぱくでは現在、特別展「驚異と怪異――想像界の生きものたち」（11月26日まで）、企画展「アルテ・ポプラル――メキシコの造形表現のいま」（12月24日まで）を開催中。また、共催展や巡回展を各地で開催しています。

共催展　友の会会員割引あり！

国立民族学博物館コレクション

世界のかわいい衣装

会期：11月13日(水)～25日(月)
会場：阪急うめだ本店9階　阪急うめだギャラリー

みんぱくコレクションのなかから「かわいい」をキーワードに選んだ、1920年代から現在までの衣装約120点が展示されます。世界各地で育まれてきた手仕事による豊かな色彩、地域独特の文様、形や着方の多様さを紹介します。
http://www.hankyu-dept.co.jp/honten/h/event/
※入館料が600円のところ、友の会会員証のご提示で100円割引になります。

上衣（パナマ）
国立民族学博物館蔵

［関連イベント］ ※詳細は決まり次第、民博ホームページに掲載されます。

◆オープニングイベント（予定）
講師：上羽陽子（民博准教授、本展プロジェクト代表）
　　島本美由紀（料理研究家）
日程：11 月 13 日（水）

◆ギャラリートーク（予定）
講師：上羽陽子ほかプロジェクト・メンバー
日程：11 月 16 日（土）、19 日（火）、20 日（水）、22 日（金）、24 日（日）

巡回展

特別展
子ども／おもちゃの博覧会

会期：～11月24日(日)
会場：埼玉県立歴史と民俗の博物館（埼玉県）
http://www.saitama-rekimin.spec.ed.jp

サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年
――「みられる私」より「みる私」

会期：～12月22日(日)
会場：横浜ユーラシア文化館（神奈川県）
http://www.eurasia.city.yokohama.jp

※開館時間、休館日、観覧料等詳細は、各施設のホームページをご覧ください。

募集中！　**阪急生活楽校の講演会にみんぱくの研究者が登場します！**

イタリア人と食――生活を楽しむために

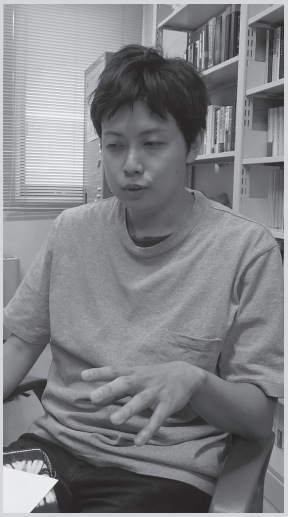
ローマ近郊の町のパン屋。午前中はパンを買いに来る客でごった返すが、午後になるとパンはほとんど売れてしまいピザが中心となる（提供・宇田川妙子）

講師：宇田川 妙子（民博教授）
日時：12月11日（水）14:00～15:30（開場13:30）
会場：阪急うめだ本店９階 阪急うめだホール
参加費：会員無料※、一般1,000円（定員300名／申込先着順）
※維持会員、正会員（体験会員）、家族会員、ミュージアム会員は会員証、キャンパスメンバーズは学生証または職員証のご提示で、ご本人様に限り無料。

［お申し込み方法］
友の会の受付フォームよりお申し込みください（ご本人を含む2名まで）。
https://www.senri-f.or.jp/eventgakko3/

新任教員インタビュー

奈良（ならまさし）雅史 先生（超域フィールド科学研究部准教授）



中国の少数民族 回族を例に、中国のイスラーム社会の変化と動向について調査を続けている奈良雅史先生が、本年四月に着任されました。研究活動や関心についてお話しをうかがいました。

学生のころ、一年間休学をして、ユーラシア横断を試みました。アフリカまで行きたかったんですがインドまでしか行けなかった（笑）。途中でダラダラと滞在してしまった場所のひとつが中国です。中国ではどこに行ってもムスリムがいる、モスクやハラールレストランがあることが目にとまりました。学生のころに九・一一が起きたことも影響していたのかもしれません。

そもそもはムスリムというより、マイノリティの存在に興味があったんです。回族は中国のムスリム人口の約半数を占めますが、国内ではもちろん少数派。他の民族集団の多くは自らの文字や言語をもちますが、回族は漢語を母語とします。厳しい弾圧の歴史を経験してきたのに、回族はどうやって漢人と隣り合って暮らしているのか。どのようにして自らの共同体を維持し再生産しているのか。マイノリティがマイノリティとして生き抜く術を知りたいと思ったのが、回族に関心をもったきっかけです。

これまでは雲南省など、限られた地域で調査をしてきましたが、今後は対象を広げたいと考えています。人もモノも動く現代。国や民族を超えた関係性のなかで何が生まれ、回族の信仰や共同体にどのような変化が生じるのか注目したいです。

いま関心があることは、移動に伴いどのようにモノに聖性が生じるのか。回族にもメッカ巡礼に行く人が増えていますが、たとえば、もち帰る土産のタスビ（数珠状の祈りの用具）の聖性はさまざまな人の手を渡るなかで生じたと考えられ、面白さを感じます。また、民族や宗教の振興をはかるなかで、結果的に雑多になる、多様性を受け入れざるをえない状況が生まれることにも興味があります。改革・開放以降、敬虔になる回族がいる一方で、多くの回族が「漢化」してきたとされます。その結果、従来、不可分と捉えられてきた回族とムスリムを区別する傾向が回族社会にはみられます。そんななか他の民族を支援の対象とする公益活動がおこなわれるようになったり、男女の出会いを兼ねた宗教活動がおこなわれたりする状況が生まれています。

民族や価値観の違いで緊張関係が先鋭化してしまうという話を耳にしますが、本当にそれだけなのだろうか、と思うことがあります。排他性はさまざまな場面で生じえますが、回族の「雑多になる」プロセスに注目すれば、他者を受け入れ、世界を肯定的に捉えるヒントが見出せるのではないかと期待しています。

回族のイベントでアッラーを讃える歌を歌う奈良准教授（ワン・シャオシエン撮影）

○2020年1月の友の会講演会に奈良先生が登壇します。

詳しくは3頁をご覧ください。

東京講演会 実施報告

■第126回■7月13日(土)
会場：モンベル御徒町店4Fサロン
【みんぱく名誉教授シリーズ】

チワン(壮)族の文化の資源化の現状

塚田 誠之（民博名誉教授）

チワン（壮）族は中国の五五の少数民族のうち最大の人口（約一六九二万人）を有する民族で、多くが広西壮族自治区に居住しています。歴史上、漢文化の影響を受容してきましたが、高床式住居や歌掛け、モチ米食品への嗜好性など独自性をも保持してきました。

講演会では、「文化資源」の概念について概観したうえで、チワン族の文化資源の現状として、「繡球」文化の創出、棚田と高床式住居の観光化を紹介しました。

美しい刺繍をほどこした球状の繡球は、民族文化のシンボルとして、また土産物として商品化されています。ふるくは男女が配偶者を選択するためにおこなった歌掛けの際に繡球は小道具として使われました。一九八〇年代以降に靖西県旧州街の繡球製作者である黄肖琴と朱祖線が中心となって、規格化された繡球が創造され、広く知られるようになりました。

一九九〇年代以降、中国の経済発展にともない、若者層が沿海部に出稼ぎに行くようになってから、伝統的な高床式住居は急速に減少し、コンクリートブロックの住居に変化しました。

龍勝各族自治県龍脊地方は高低差五〇〇メートルもの壮大な棚田で知られる観光地です。そこでは高床式住居が保存され観光資源となっています。一九九〇年代以降、インフラが整備され観光開発がなされました。平安村、金坑大寨村、古壮寨村の観光開発の過程と現状を概観するとともに、結婚式の夜の歌掛けなど民族の伝統文化も保たれていることを紹介しました。

「繡球の郷」、旧州の街角にて

友の会講演会 告知

【会場】本館2階 第5セミナー室 ※定員96名、当日先着順 会員：無料（会員証提示）、一般：500円

■第495回■
【みんぱく名誉教授シリーズ】
聖なるもの 俗なるもの
講師：立川 武蔵（民博名誉教授）
日時：12月7日（土）13時30分～14時40分

「宗教」と呼ばれているものにはさまざまな儀礼や実践が見られます。定められた日に各地方の祭りがありますし、彼岸には人びとは祖先供養のため寺や墓地を訪れます。葬儀や法事には宗教的要素が強く見られます。一方、個々人の精神的救いのためには坐禅、念仏などがおこなわれています。これらさまざまな現象を聖なるもの、俗なるもの、浄なるもの、不浄なるものなどの基本概念によって統一的に捉えることを目指します。

※講演会終了後、講師を囲んで懇談会をおこないます（40分）。

■第496回■
中国に生きるムスリムたち
講師：奈良 雅史（民博准教授）
日時：2020年1月11日（土）13時30分～14時40分

中国には約二〇〇〇万人のムスリムが暮らしており、その約半数を回族とよばれる人びとが占めています。彼らはおもに唐代から元代にかけて中国にやってきた外来ムスリムとイスラームに改宗した漢人との通婚を通して形成された民族集団とされており、中国全土で漢人と隣り合いながら暮らしてきました。本講演では、回族の歴史と文化について紹介したうえで、宗教教育を事例に彼らが中国共産党政権下でいかにイスラーム信仰を続けているのかを考えます。

※講演会終了後、講師を囲んで懇談会をおこないます（40分）。

10月の友の会講演会の延期開催について

台風19号の影響で臨時休館となり、第463回友の会講演会は10月22日（火・祝）に開催日を延期して実施いたしました。急な開催日の変更となり、お詫び申しあげます。

東京講演会 募集

■第128回東京講演会■
消滅の危機に瀕した言語
講師：吉岡 乾（民博准教授）
日時：2020年1月25日（土）13時30分～14時40分
会場：モンベル御徒町店4Fサロン（定員：60名）

二〇一九年は国際先住民族言語年でしたが、日本ではほとんど話題になりませんでした。世界では数千もの言語が話されており、何億人も話すものも、数人しか話さないものもあります。近年、消滅の危機に瀕した言語についての意識が、少なくとも一定数の研究者間では高まっており、さまざまなアクションが起こされてきています。本講演では、実際に危機言語も調査している講師とともに、改めて危機言語というものを考えます。

※講演会終了後、講師を囲んで懇談会をおこないます（40分）。
※要事前申込／会員：無料、一般：500円
○ハガキ、FAX、受付フォームにて事務局までお申し込みください。
実施1週間前を目安に参加証をお送りします。
●受付フォーム
https://www.senri-f.or.jp/128tokyo/

会員による
会員のための学習機会
みんぱく友の会
雑学サロン

11/16（土）雑学☆発表会「二度目のインド―家族で周る西インドの旅」
12/21（土）ぶらぶら民族学「江崎記念館とロングセラー商品」説明会

日程：第3土曜日15:30～16:30
会場：本館2階 第7セミナー室

申込不要
会場にて友の会会員証、フリーパスをご提示ください。

問い合わせ先：田和、谷北、山本（実行委員） zatsugakusalon@gmail.com

イベントスケジュール

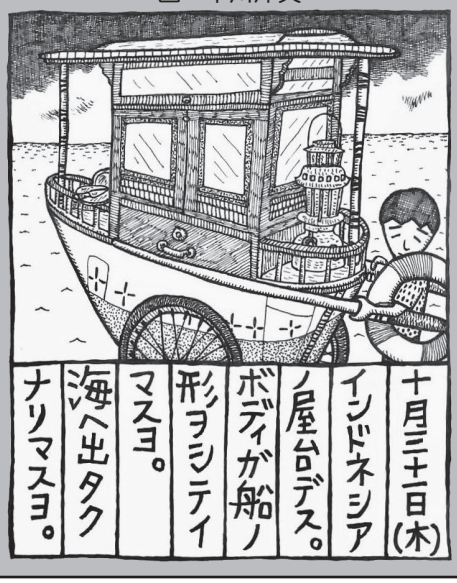
■**特別展「驚異と怪異―想像界の生きものたち」**
開催中～11/26（火）
■**企画展「アルテ・ポプラル―メキシコの造形表現のいま」** 開催中～12/24（火）

●**友の会講演会**
11/2（土）鈴木英明　12/7（土）立川武蔵
●**みんぱくゼミナール**（本館セミナー室ほか）
11/16（土）新免光比呂　12/21（土）小野林太郎
●**みんぱくウィークエンド・サロン**
11/3（日・祝）鈴木紀　11/10（日）齋藤晃
12/1（日）新免光比呂　12/8（日）広瀬浩二郎
12/15（日）宇田川妙子
●**みんぱく映画会**
11/9（土）みんぱくワールドシネマ
「ワンダーストラック」（本館セミナー室）
12/22（日）みんぱくワールドシネマ
「あまねき旋律（しらべ）」（特別展示館）
●**その他の催し**
11/7（木）、11/21（木）、12/5（木）
企画展ギャラリートーク
11/16（土）、11/17（日）
北大阪ミュージアムメッセ
11/16（土）、11/17（日）
無料観覧日※本館展示のみ
11/28（木）ミンパク オッタ カムイノミ

【館外での開催】
［東京］
● 11/15（金）公開講演会「アニメ『聖地』巡礼―サブカルチャー遺産の現在」
［大阪］
■【展示】国立民族学博物館コレクション「世界のかわいい衣装」（阪急うめだ本店）
11/13（水）～11/25（月）
● 11/23（土・祝）人文機構シンポジウム「この世のキワ―自然と超自然のはざま」（グランフロント大阪北館）
● 12/11（水）阪急生活楽校 講演会「イタリア人と食―生活を楽しむために」（阪急うめだ本店）

◆都合によりスケジュールが変更になる場合があります。
◆イベントの参加には必ず会員証をご持参ください。

ぼくのみんぱく日記
画・中川洋典



友の会講演会 実施報告

■第491回■8月3日(土)
【みんぱく名誉教授シリーズ】

若きガンディー

杉本 良男（民博名誉教授）

インドが生んだ偉人マハートマ・ガンディー（一八六九―一九四八）は、一九一五年に四五歳で南アフリカからインドに帰り、その後の独立運動を指導しました。インドの政治的指導者としてのガンディーの活動はよく知られていますが、思想形成期である前半生についてはあまり知られていません。

一八八八年に一八歳でイギリスに留学したガンディーは、法学を学び弁護士資格を得るとともに、ヴィクトリア期の進歩的な人びととの交流をつうじて自らの思想をつくりあげていきました。そのさい、厳格な菜食主義者であった母との約束で、菜食を貫くうちに、当時のイギリスの菜食主義者サークルの人びととの交流がうまれ、さらにそこから神智主義や秘教的キリスト教などの秘教思想にも傾倒していきました。弁護士資格を得たのち、一八九一年にいったんインドに戻りましたが、思ったような弁護士活動をおこなうことができず、一八九三年に南アフリカに新天地を求めました。

ガンディーはユダヤ系の神智主義者や秘教的キリスト教ユニオンなど、ひろく秘教思想と深く関わり、西欧的な思想と、インド伝統の思想とを高次に融合した独自の思想をつくりあげ、さらにそれを実践をつうじて鍛えあげていきました。その過程で、徹底した非暴力により普遍的な真理を希求するサティヤーグラハ、アヒンサーなどの思想へと昇化させ、その後のインド独立運動に応用していきました。これによって、当時の植民地ナショナリストの限界と、それを超えたガンディー思想の意義を再考しました。

南インド、チェンナイの、映画スター像（左）と並ぶガンディー像（奥）

■第492回■9月7日(土)

エベレストの麓に生きる人びと
――シェルパとヒマラヤ観光の現在

古川 不可知（民博機関研究員）

今回の講演では、エベレスト登山のガイドとして有名なシェルパ族の人びとについて、その日常生活に焦点を当ててお話ししました。まずエベレストの南麓にあたるネパール東部のソルクンブ郡クンブ地方が、世界的に有名なヒマラヤ観光の名所であることを紹介しました。またそこに暮らすシェルパ族の人びとが、エベレストに登る勇敢な山岳ガイドとしてイメージされるようになった過程を、ヒマラヤ探検の歴史を確認しながら説明しました。

それを踏まえて本講演では、とりわけトレッキングや登山といったグローバルな観光が村落での生活におよぼす影響について考えました。わたしが調査をおこなっていたポルツェ村では、およそ四〇〇人の村人のうち五〇人以上がエベレスト登頂経験をもち、現在はほぼすべての世帯が観光からなんらかの形で収入をえるようになりました。主食はジャガイモやソバからバザールで購入するコメへと変わり、家畜のヤクは搾乳用の雌よりも荷役用の雄が増加するなど、生活スタイルも変化しました。村には観光客に加えて西洋人の篤志家やNGOも訪れるようになり、電気や診療所などインフラの整備が進んだほか、近年は村内に登山技術を教える学校も開校しました。

村の人びとはこうした生活の変化をおおむね肯定的にとらえており、例えばある若者が「僕たちは普段はヤクを追い、シーズン中は観光客を追うんだ」と述べたように、観光の仕事は従来の生業の延長線上に位置付けられていることを指摘しました。

登山学校で氷壁登攀（とうはん）の訓練を受ける人びと

お問い合わせ、お申し込みはこちら

友の会はいつでも、どなたでもご入会いただけます。

国立民族学博物館友の会
一般財団法人 千里文化財団

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1(国立民族学博物館3階)
電話：06-6877-8893(平日9:00～17:00)
FAX：06-6878-3716
e-mail：minpakutomo@senri-f.or.jp
https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/

年会費自動引落のご案内

事前登録をいただきますと、次年度継続時より指定の口座（ゆうちょ銀行以外の金融機関でもご利用可）から自動的に年会費の払い込みができる便利なシステムです。ご希望の方は左記友の会事務局までご連絡ください。